

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ(警報第1号継続)	並 多	並 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 並 少	並 やや多 やや多 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	少	やや少
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	- 少	並 やや少
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 やや多 やや少 少 並 やや少	やや少 並 やや多 やや少 やや少 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発病株率は2.3%(2.9%)、発生圃場率は34.5%(41.3%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は100%(31.5%)であった。

2. トビイロウンカ

平成25年9月4日付け病害虫発生予察警報第1号を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月上旬の巡回調査(87筆)の結果、株当たり虫数は3.1頭(0.6頭)、発生圃場率は85.1%(42.3%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は100%(45.4%)、株当たり虫数は27.3頭(1.6頭)で若齢幼虫主体であった。

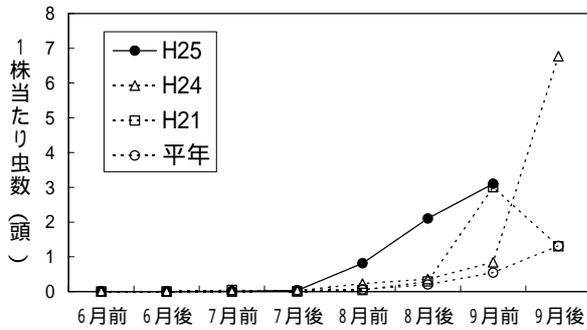


図1 1株あたり虫数の推移

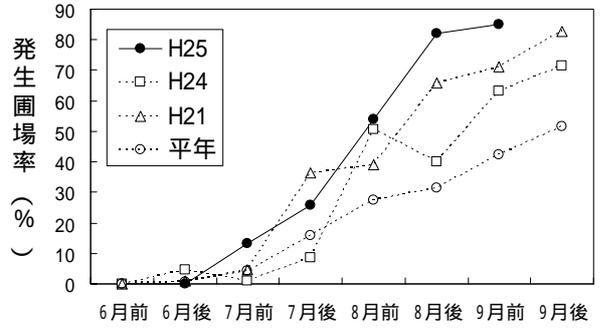


図2 発生圃場率の推移

注) H21、H24 年は多発年

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は5.8%(10.8%)、株当たり虫数は0.4頭(0.6頭)、白変葉発生圃場率は26.7%(50.6%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は4.0%(18.3%)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、8月6半旬に増加し、その後減少したが、9月3半旬に再び増加している。

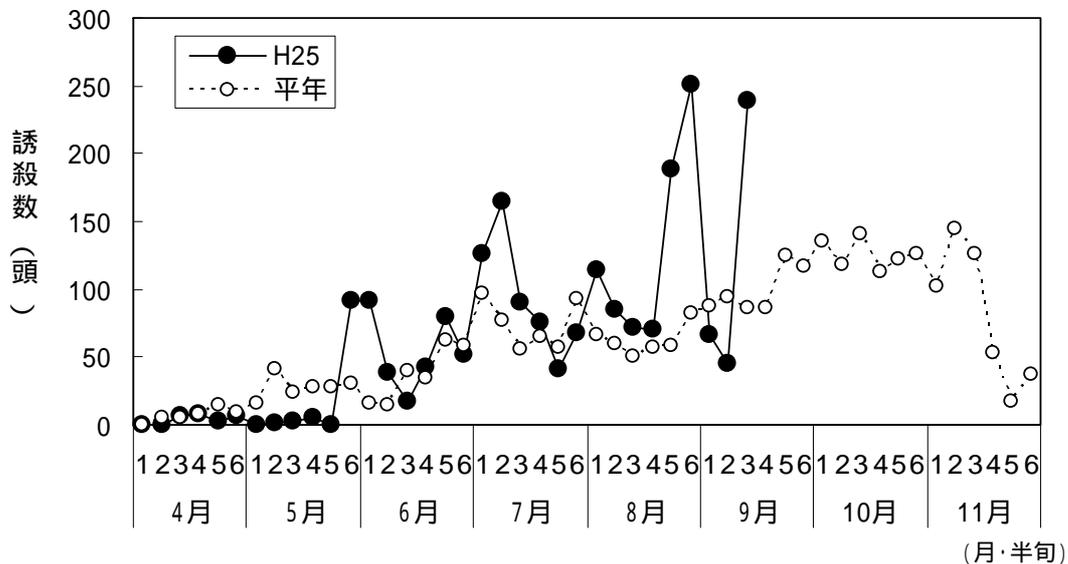


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年:H15~24年の平均値(最大・最小値除く)

エ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は0.9%(0.5%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は20.0%(14.0%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は6.0%(3.5%)、株当たり虫数は0.1頭(0.0頭)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.03%、発生圃場率1.9%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

エ 定植後は、定期的に薬剤の予防散布を行う。

2. 炭疽病(*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発病株率は0.1%(0.6%)、発生圃場率は28.1%(15.0%)であった。

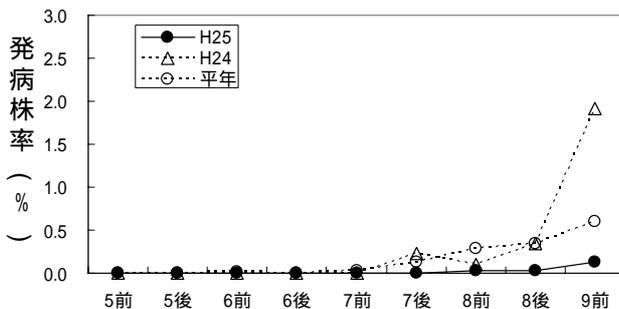


図1 炭疽病(*G.cingulata*) 発病株率の推移

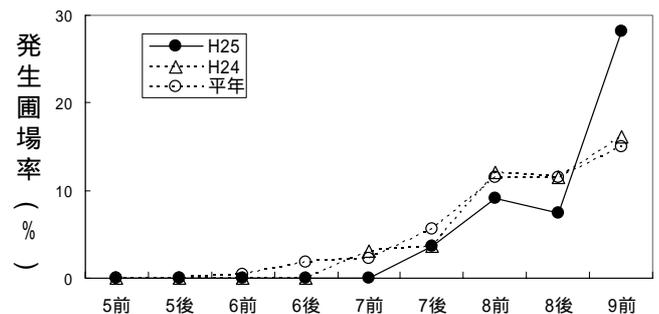


図2 炭疽病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した株および発病の恐れがある株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。

イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 強雨や台風の前夜など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（32筆）の結果、寄生株率は3.5%（2.8%）、発生圃場率は28.1%（26.5%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

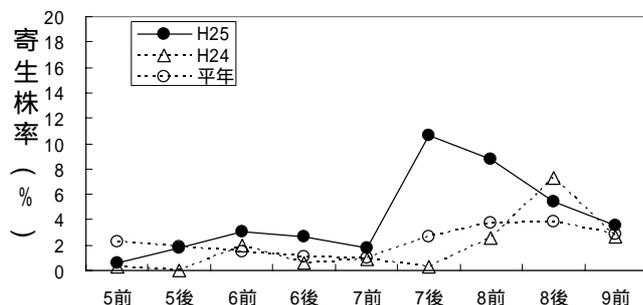


図1 ハダニ類 寄生株率の推移

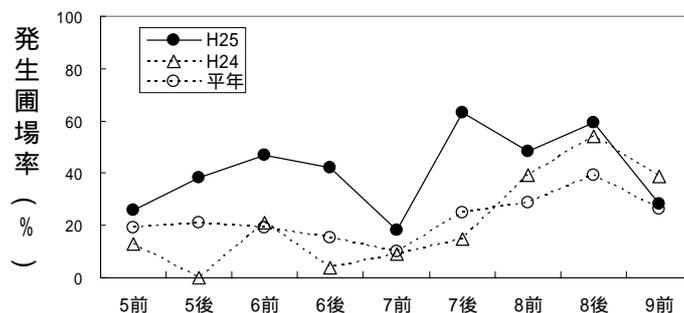


図2 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃に持ち込まないよう定植前の防除を徹底する。

イ 薬剤散布は散布むらをさけるため、葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

エ 本圃で天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるので、使用時期に注意する。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（32筆）の結果、食害株率は0.4%（3.2%）、発生圃場率は9.4%（41.8%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、8月6半旬に増加し、その後減少したが、9月3半旬に再び増加している（大豆の項参照）。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は1.3頭（過去6カ年平均7.6頭）、発生圃場率は25.0%であった（過去6カ年平均60.4%）。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

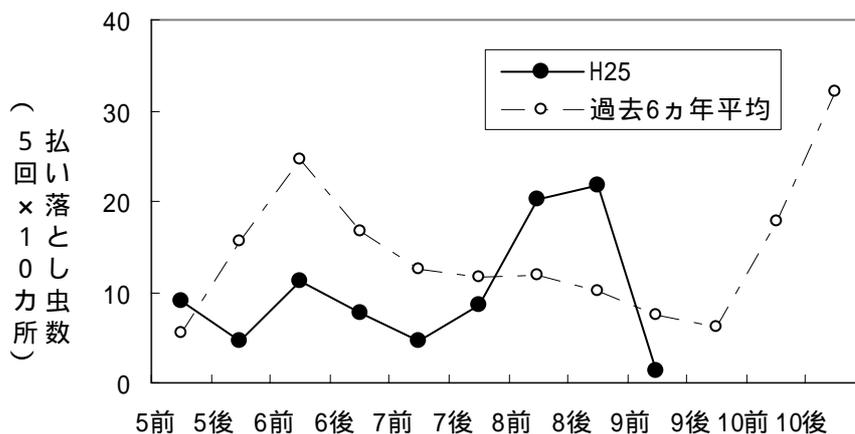


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移 (巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月間の降水量は平年並か少ない見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は2.9%(6.8%)、発生圃場率は22.2%(48.9%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 巡回調査の結果、一部のなし園で発生を認めた。また、病害虫防除員及び振興局の9月上旬の調査では一部のかんきつ園で飛来が見られている。

イ 県内各地の予察灯による誘殺数は、一時的に北有馬町では増加したものの、その後は各地ともに平年に比べやや少なく推移している(図)。

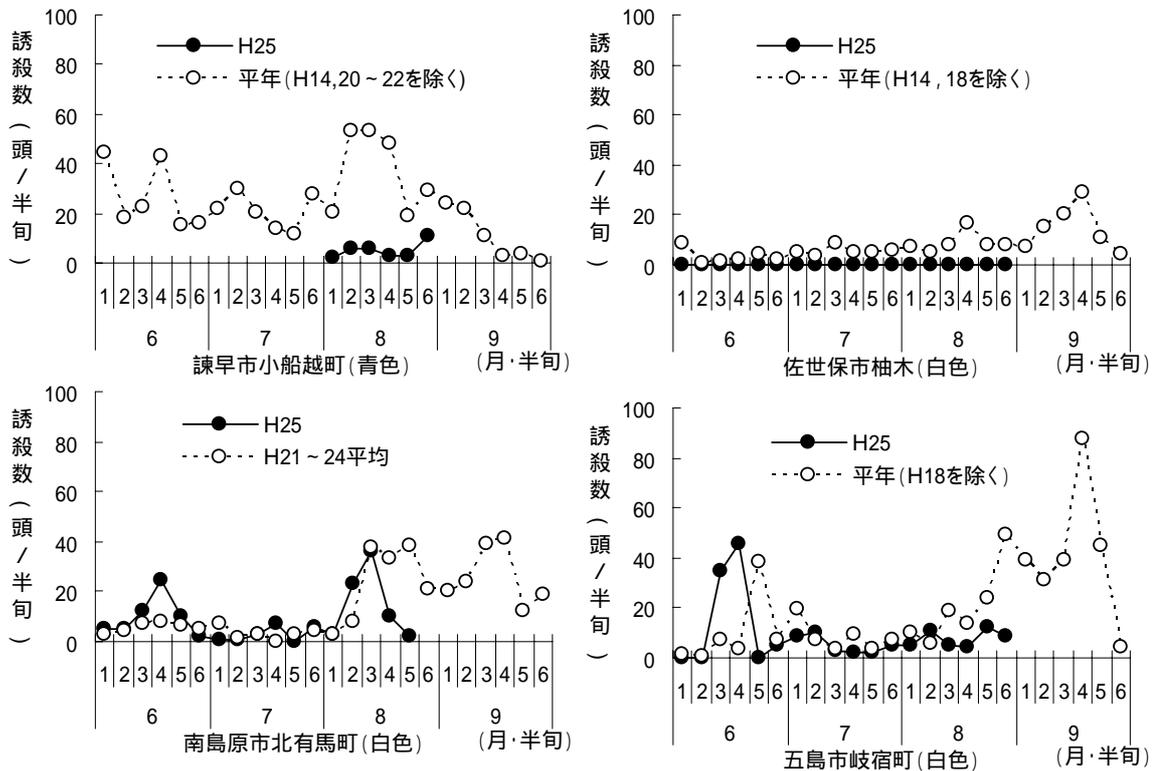


図 果樹カメムシ類誘殺状況(予察灯;白色、青色)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果樹園の見回りを徹底し、飛来や被害果が見られたら早急に防除を行う。
- イ カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来し、果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は2.0枚(5.3枚)、発生圃場率は50.0%(48.1%)であった。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は1.1%(0.9%)、発生圃場率は10.0%(20.0%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は30.7頭(18.5頭)、発生圃場率は100.0%(76.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.3枚)、発生圃場率は15.0%(18.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)はやや少なくて推移している(図)。

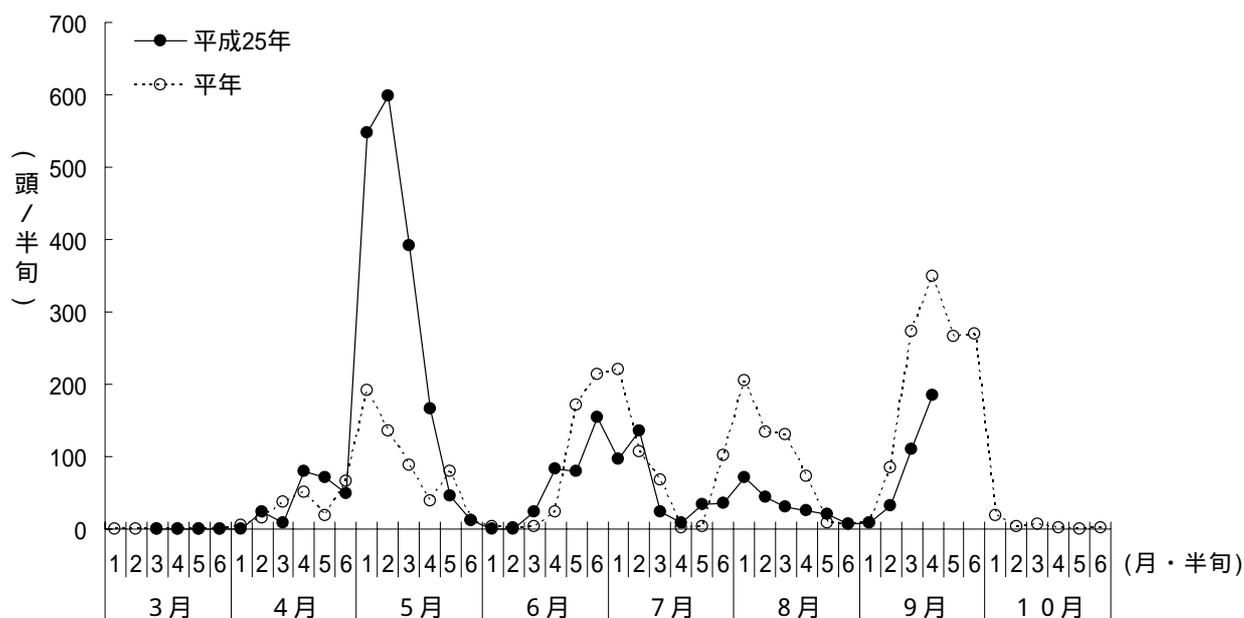


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵：フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数1.0枚、発生圃場率32.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、やや多く推移している(図)。

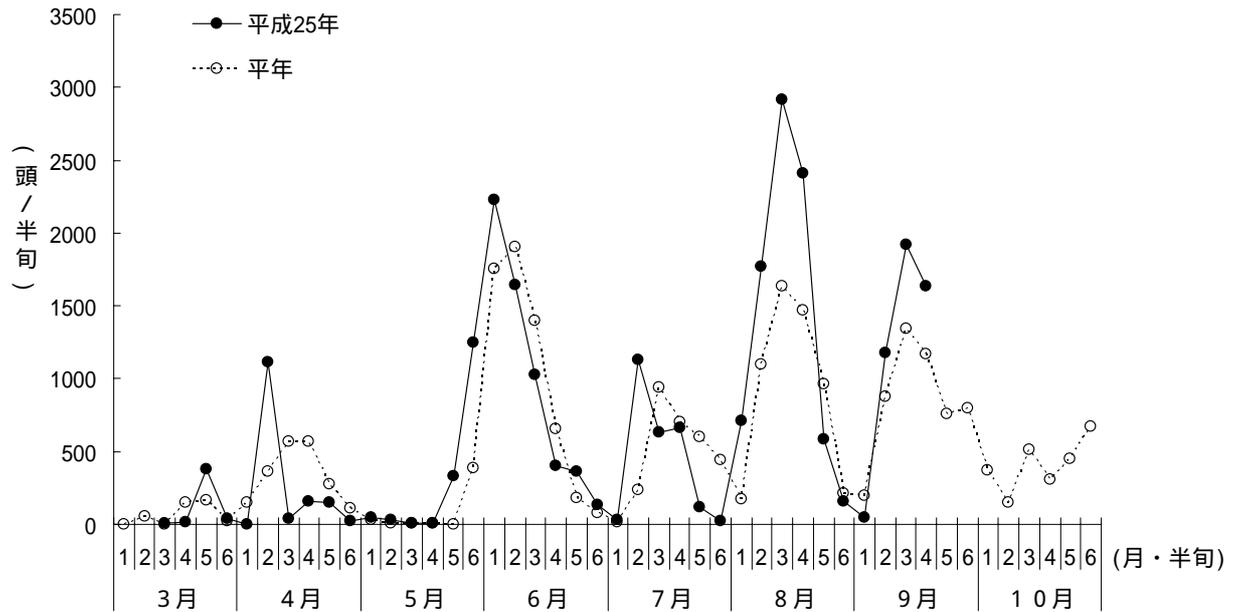


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は1.3頭（1.7頭）、発生圃場率は50.0%（54.4%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は2.8%（5.0%）、発生圃場率は25.0%（30.6%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】

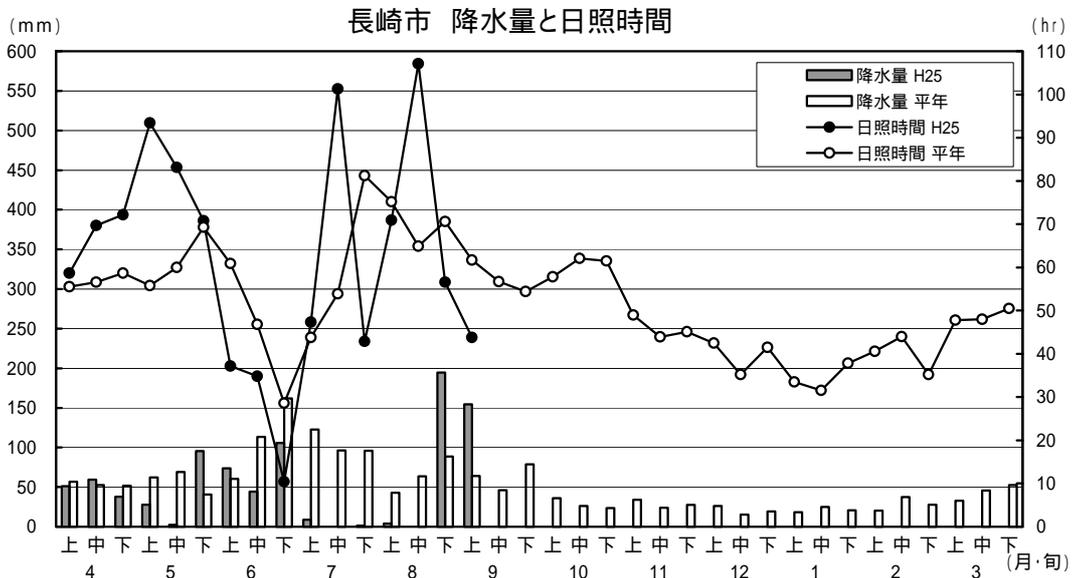
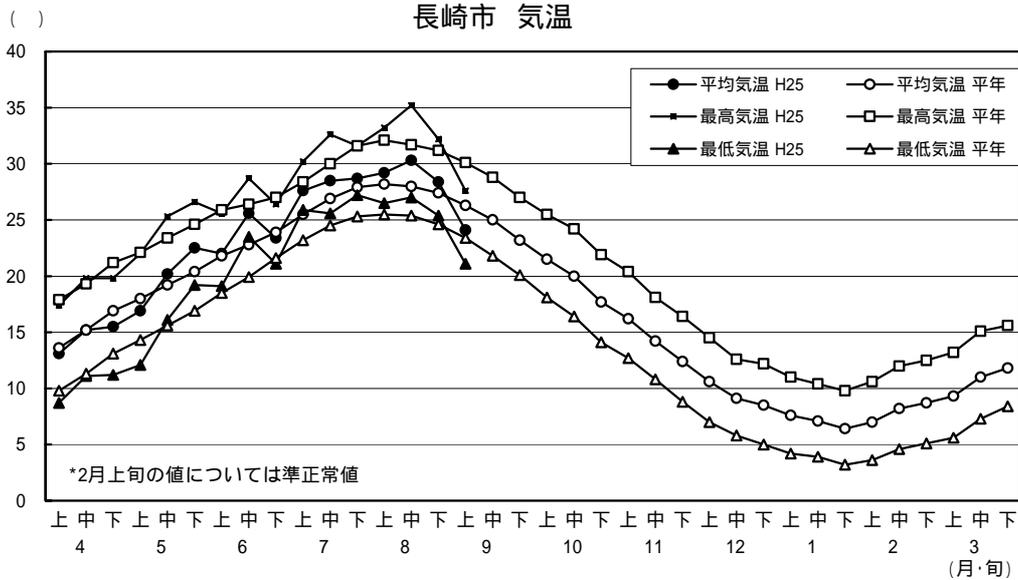
気象 (平成25年9月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋气象台)



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農業危害防止期間」と定め、農業事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027